

ATLV-I母子感染予防対策 (沖縄)

中山道男, 前浜俊之, 長嶺 勝*, 中嶋安嗣*, 武居 洋*

要約: ATLV-I 母子感染の診断に抗体検査および抗原の検索が重要である。そこで我々はT細胞内に provirusとして取り込まれている ATLV-I の遺伝子を検出する DNA 診断の有用性を検討した。対象は ATLV-I 抗体を検索した32例(内児11例)である。

見出し語: ATLV-I 感染妊婦とその児, PCR法

研究方法: 検体よりリンパ球を分離し、さらにそのDNAを抽出した。そのDNAに対しATLV-Iの遺伝子 pol の部位の塩基配列をもった primer を作成し、Tag polymerase を用い、polymerase chain reaction (PCR) 法にて約10万~100万倍に増幅を試みた。増幅が認められたものを provirus 陽性、認められなかったものを provirus 陰性とした。

結果: 32例中21例は抗体検査の結果と一致したが、残りの11例は不一致および不明例であった。不一致7例のうち抗体陽性・PCR法陰性が1例であり、抗体陰性・PCR法陽性が6例であった。一方、不明4例のうち、抗体陽性・PCR法判定不能が2例、抗体陰性・PCR法判定不能が1例、抗体判定不能・PCR法陽性が1例であった。

考察: 不一致7例のうち、抗体陽性・PCR法陰性は1例(児)のみで、これは抽出したDNAが微量のためと示唆された。残りの6例(内児4例)は抗体陰性・PCR法陽性であり、また不明4例においては抗体検査の判定不能が1例、残りの3例(内児1例)はPCR法判定不能であった。以上、不一致、不明例においてはSouthern blot法による確認検査および再検査を行うとともにさらに症例数を増やし、慎重に検討する必要がある。今回、我々が行った

琉球大学産婦人科、同第2生化学*

抗体検査とPCR法の比較(1)

	検体数	陽性	陰性	不明
抗体	32	16	15	1
PCR法	32	20	9	3

たATLV-I感染のDNA診断はT細胞中の provirus の遺伝子を検出する方法であり、従来の培養、間接蛍光抗体法による抗原の検索より比較的短時間でかつ正確な結果が得られるため有用であることが示唆された。

抗体検査とPCR法の比較(2)

不一致(7例)の内訳

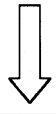
- ・抗体(-), PCR法(+); 6例
- ・抗体(+), PCR法(-); 1例

不明(4例)の内訳

- ・抗体(+), PCR法(?); 2例
- ・抗体(-), PCR法(?); 1例
- ・抗体(?), PCR法(+); 1例

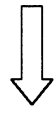
文 献

- ① Primer-Directed Enzymatic Amplification of DNA with a Thermostable DNA polymerase
R. K. Saiki et al, Science, VOL. 239, 487 (1988)
- ② 極微量DNAによる出生前診断法
中村祐輔、細胞工学 Vol. 5, No.8, 755 (1986)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:ATLV-1 母子感染の診断に抗体検査および抗原の検索が重要である。そこで我々は T 細胞内に provirus として取り込まれている ATLV-1 の遺伝子を検出する DNA 診断の有用性を検討した。対象は ATLV-1 抗体を検索した 32 例(内児 11 例)である。